

【(4) 授業の導入】

①－１「前時の復習をしている」

《つまづきの背景》

C 記憶力の弱さ、N 注意の持続の困難さ

《解説》

授業の導入の際に前時の復習を行うと、子どもが学習内容を思い出し、本時の内容とのつながりを理解しやすくなります。子どもの授業に対しての構えもできやすく、授業にスムーズに入っていくことにもつながります。

学級の中には記憶が苦手な子どもや注意を持続することが困難なために前時の学習内容が十分に理解できていない子どもがいる場合があります。前時の復習を行うことで学習内容の定着度合いを確認し、必要に応じてフォローすることができます。

復習の際、前時の学習の流れが目で見えて分かるような掲示物を準備しておく、子どもがより確認しやすくなります。

【工夫点】

- ・授業の始めに教科書を読ませたり、ノートを確認したりする。(小中高)
- ・導入で前時の復習となるような質問を行う。(小中高)
- ・宿題の確認、答え合わせをする。(小中高)
- ・教室内に前時の学習の流れが分かるような掲示物を用意する。(小中高 工夫例 24)

◆工夫例 24 「教室内に前時の学習の流れが分かるような掲示物を用意する」

比の性質

時間(分)	1	2	3	4	5	6
水の量(cm)	2	4	6	8	10	12

一方の値は2倍、3倍、 $(\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots)$ となると、
他方の値も2倍、3倍、 $(\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots)$ となる。

◎ 2つの量が比例しているか調べよう

表を縦に見ると、
 $\square \div \square$ が、どれも \square になります。(きまり)

表を横に見ると、
 \square が2倍、3倍、...になると、

《算数（小学校6年生）》

導入の際に、前時の学習内容を目で見えて確認できるものを準備しておく、子どもはそれを見て、前時の学習内容を思い出しやすくなります。移動式の黒板に貼っておき、教室内に置いておくと、休み時間等を利用して子どもが確認することもできます。